

群 教 セ	G11 - 02
	平 21. 241集

小学校におけるキャリア教育の推進 に向けての調査研究

— 学校外の人材を活用した教育活動に視点を当てて —

長期研修員 佐藤 健

《研究の概要》

本研究は、県内の公立小学校を対象とした実態調査を基礎資料として、小学校におけるキャリア教育の推進に向けての提案を行うことを目的とする。具体的には、学校外の人材を活用した教育活動について、キャリア教育の視点からのポイントや学校外の人材を活用する流れなどを示すことにより、これまで各学校で展開してきた教育活動をどのように見直せばキャリア教育の取組として機能するかについて実践モデルを作成し、提示する。

キーワード 【キャリア教育 小学校 学校外の人材 実践モデル】

I 調査研究の背景と目的

1 現状と課題

平成18年11月に文部科学省から出された「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」（以下、手引）では、キャリア教育の意義や推進のための手順等を示すとともに、学校・家庭・地域との連携・協力の必要性やその在り方に言及している。また、平成20年3月告示の小学校学習指導要領では、総合的な学習の時間に加え、道徳及び特別活動の目標の中にも「自己の生き方についての考えを深め」という文言が付け加えられた。平成21年3月には、国立教育政策研究所から小学校教員向けキャリア教育推進用パンフレットが発行されるなど、これまで以上に小学校におけるキャリア教育の推進が求められている。

本県に目を向けると、今年度の「学校教育の指針」では、指導のポイントの一つとして、「新たな学習活動を作り出すのではなく、各教科・領域等で既に行っている学習活動を、キャリア教育という視点から見直し」すことを述べている。

近年、小学校でのキャリア教育の実践が、事例集等で見られるようになってきたが、キャリア教育の研究指定校のものである場合が多い。一方、協力校を含め、それ以外の小学校では、中学校や高等学校と異なり進路指導が位置付けられていないこともあり、キャリア教育の実践への意識が薄い傾向がうかがえる。しかしながら、手引等でも強調されている「学校・家庭・地域との連携・協力の必要性」に応え得る教育活動、具体的には、学校外の人材を活用した教育活動は、日頃から教

多く行われていることが予想される。課題として、それらの取組が、キャリア教育の視点からとらえられていないことにあるのではないかと考える。

そこで、小学校における学校外の人材を活用した教育活動の実態を把握するとともに、それがキャリア教育の視点で行われているかという教員の意識を調査し、今までの活動をどのように見直せばキャリア教育の取組として機能するかということをも具体的に提案していくことが、小学校におけるキャリア教育の推進につながるものと考えた。

2 調査研究の目的

小学校における学校外の人材を活用した教育活動の実態とその指導に当たる教員の意識を調査することにより、現状と課題を把握する。そして、これまでの教育活動をどのように見直せばキャリア教育の取組として機能するかについての提案を行う。

II 調査研究の内容

1 調査研究の基本的な考え方

学校におけるキャリア教育を無理なく推進していくために指摘されていることは、既存の教育活動をキャリア教育の視点から見直して実践していくことである。そこで、以下の点を基本的な考えとして、調査研究を進める（次頁図1）。

(1) キャリア教育の視点からの見直しとねらいの設定及び系統的な指導

手引等では、小学校のキャリア発達段階を進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期と位置付け

ており、キャリア教育の目標として、「自己及び他者への積極的関心の形成・発展、身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上、夢や希望・憧れる自己イメージの獲得、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成」を掲げ、既存の教育活動をキャリア教育の視点からとらえ直すことの重要性を指摘している。キャリア教育の視点とは、前出の小学校教員向けキャリア教育推進用パンフレットによれば、「将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら子どもたちの成長や発達を促進する見方をもつこと」である。この視点からの見直しを行い、それぞれの教育活動において、キャリア教育としてのねらいを意図的・計画的に設定すること、つまり、育成することが期待される能力や態度を具体化するとともに、系統性を踏まえた指導を行うことが大切であると考え。

(2) 学校外の人材を活用した取組

手引等では、キャリア教育の推進には、学校・家庭・地域との連携・協力が重要であるとしている。実際には、家庭や地域の人など、学校外の人材を活用した教育活動は数多く行われていることが予想される。しかし、それをキャリア教育の視点から意識的に行っていることは少ないと思われる。既に各学校で行われている学校外の人材を活用した教育活動を見直し、キャリア教育の取組として機能させることができれば、新しい教育内容や活動を設定するなどという大きな負担なくキャリア教育の推進を図っていけるものと考え。

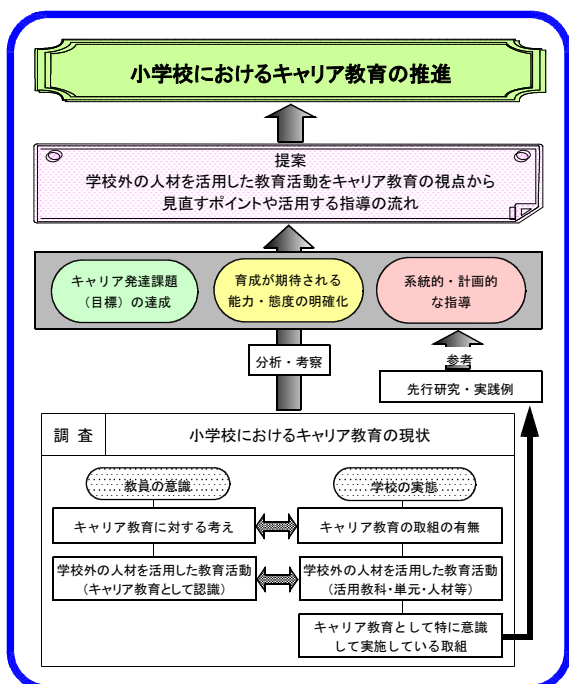


図1 調査研究構想図

2 調査の対象

- 県内公立小学校337校から標本抽出により183校を抽出（市町村ごとの学校数に応じて抽出数を比例配分し、地域および学校規模を考慮して対象校を選定）
- 回答者：各校の教務主任
- 調査時期：平成21年8月

3 調査の概要

(1) 調査内容

小学校におけるキャリア教育の現状を把握するため、大きく2つの事項について調査した。

① キャリア教育全般について

ア 教員の意識

小学校の教員が、キャリア教育全般について、どのような考えをもっているかを調査する。調査項目については、当センターが平成18年度に県内公立中学校・高等学校を対象に行った項目の一部を活用する。

イ 学校における推進状況

キャリア教育の位置付け、組織や体制等の整備や具体的取組状況を調査する。調査項目については、手引にある《学校におけるキャリア教育推進チェックシート（例）》を参考として作成した。また、キャリア教育として特に意識して実施している教育活動についても調査する。

② 学校外の人材を活用した取組について

ア 取組の実態

学校外の人材とは、保護者やその家族、地域住民、公的機関や企業に勤めている人などが挙げられる。各学校においては、学校支援センターなどを通して、外部講師や協力者として、各教科等の学習活動や行事等で活用する場面が多々ある。これらは、各教科等のねらいの達成や個への支援の充実を図ることなどを目的として積極的に活用されていると考えられる。各学年の教科・領域、単元・内容等において、具体的にどのような場面でどのような人材を活用しているかを調査する。

イ 取組に対するキャリア教育としての意識

上記アで挙げた学校外の人材を活用した教育活動について、それをキャリア教育の一環として意識して取り組んでいるかを調査する。

(2) 調査項目

- 項目Ⅰ キャリア教育への教員の考え(意識)
 - …調査内容①ーア
- 項目Ⅱ キャリア教育の取組の実態

特に意識して実施しているキャリア教育の取組

…調査内容①ーイ

- 項目Ⅲ 学校外の人材を活用した教育活動
 - ・活用学年、教科、単元、人材等
 - …調査内容②ーア
 - ・キャリア教育としての意識の有無
 - …調査内容②ーイ

Ⅲ 調査結果と分析・考察

1 キャリア教育全般について

(1) 教員の意識

① キャリア教育の必要性

キャリア教育について、ほとんどの教員が小学校段階から全教育活動を通じて取り組んでいくべきだと考えており（図2）、小学校段階から取り組む必要性・重要性について、肯定的であることが分かる。

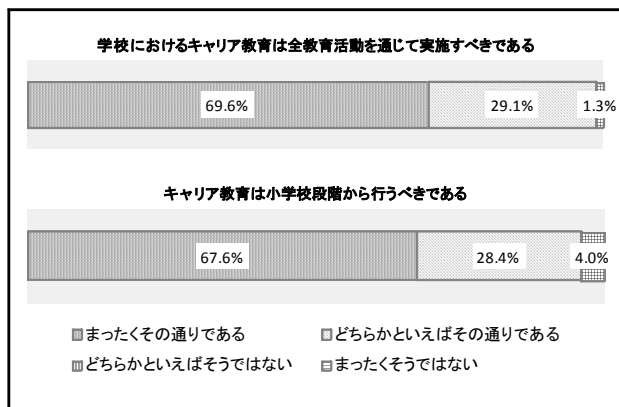


図2 キャリア教育の必要性

② キャリア教育の理解

キャリアという言葉の意味やキャリア教育の背景となる状況等については、ある程度は理解し説明できるとしているが、自信をもってできると回答した教員はそれぞれ20%にも満たない（図3）。

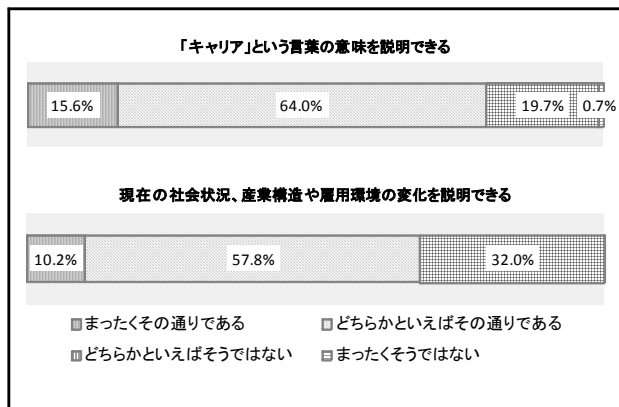


図3 キャリア教育への理解

③ キャリア教育に学校が果たす役割

ほとんどの教員が、キャリア教育は、学校・家庭・地域のそれぞれが役割を担って行っていくべきだと考え、その中でも、学校や教員の果たすべき役割は大きいと考えている（図4）。しかし、学校や教員の役割については、「どちらかといえば」という回答が53%に上っており、学校以外の役割の大きさも感じていることがうかがえる。

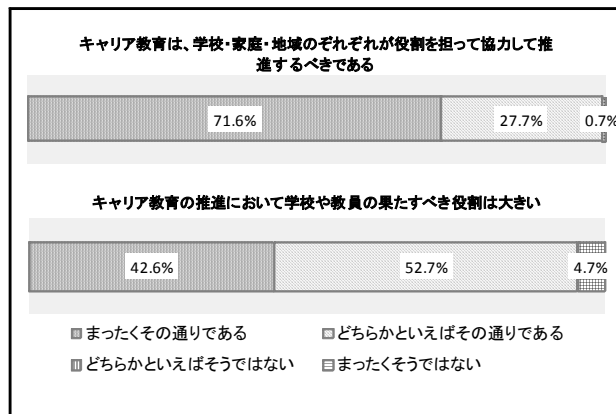


図4 キャリア教育に学校が果たす役割

④ キャリア教育への期待

キャリア教育に対して不安感より期待感の方が大きいと答えた教員は78%いるが、その80%以上は「どちらかといえば」という回答であり、期待感とともにある程度不安感をもっていることがうかがえる（図5）。キャリア教育の歴史がまだ浅いということもあり、内容や進め方が分からないと感じている教員が多いものと考えられる。そのため、キャリア教育の具体的実践例の紹介や実践モデルの提示が有効であると考えられる。

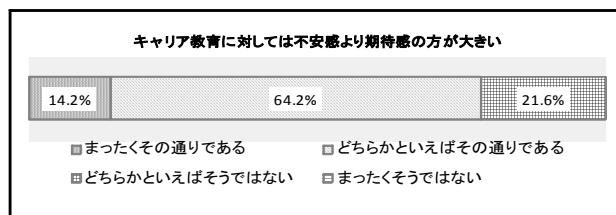


図5 キャリア教育への期待

⑤ 自由記述から

自由記述で挙げられた主な内容は、以下のとおりである。

- ・キャリア教育は必要であり重要である
- ・キャリア教育を教育活動全体の中で見直す必要がある
- ・発達段階に応じた系統的・計画的な取組が大切である
- ・児童に身に付けさせたい能力や態度を明確にする必要がある

これらを見ると、全体的にはキャリア教育への理解や認識が高くなりつつあり、キャリア教育に取り組む必要性や重要性について理解している教員が多いのではないかと考える。

- ・教員間に理解の差がある
- ・考え方の共通理解が難しい
- ・取り組むべきことが多くキャリア教育まで手が届かない
- ・家庭や地域での教育力の低下や将来の夢や希望について話し合うことが少ない
- ・キャリア教育という名称が分かりづらい

一方で、少数ではあるが、以上のような記述もあり、キャリア教育を進めていく上での問題点や課題を指摘する意見もあった。このことから、キャリア教育の必要性は認めながらも、戸惑いや不安を感じていることが分かる。それらを少しでも払拭できるようなものを提示する必要がある。

⑥ 前回調査との比較

今回の調査を、3年前に当センターが公立中学校の第3学年主任を対象に行った調査結果と比べると、以下のことが言える（別添資料を参照）。

「キャリア教育は、全教育活動を通じて実施すべき」「学校や教員の果たすべき役割は大きい」「キャリア教育に対しては不安感より期待感の方が大きい」と考えている教員の割合が増加している。また、「キャリアという言葉の意味を説明できる」や「キャリア教育の背景となる現在の社会状況等の変化を説明できる」という割合も増えた。これらは、キャリア教育そのものについて認識する機会が広がってきたことや、キャリア教育の意義や取組の重要性、必要性が求められ、刊行物等により啓発されてきている結果であると考えられる。

唯一、前回の調査より下がったのは、「キャリア教育は、学校・家庭・地域社会のそれぞれが役割を担って協力して推進していくべきである」の項目である。学校外の人材等の効果的な活用を促すような資料が必要であると考えられる。

(2) 学校における推進状況

① キャリア教育の位置付け

学校教育目標にキャリア教育を位置付けていると回答した学校は49%、キャリア教育の全体計画を作成している学校は34%であった（図6）。学校教育目標にキャリア教育を位置付けていると回答した学校のうち、全体計画を作成しているという学校は40%に止まっている。これらから、キャリア教育を位置付けたものの、実際には系統的、

計画的に指導が展開されていないことが分かる。

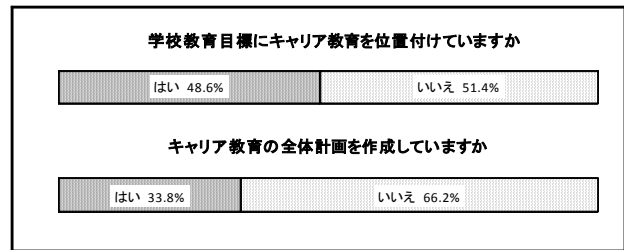


図6 キャリア教育の位置付け

② キャリア教育の理解と校内体制

キャリア教育推進委員会（部会）などの組織を設置している学校は3分の1に満たない。また、キャリア教育について教職員全体で共通理解ができていないと回答した学校は35%で、校内研修でキャリア教育の内容について取り上げている学校は10%程である（図7）。ここからも、教職員全体の共通理解が不十分であるということがうかがえる。そのため、校内研修等の場でキャリア教育についての内容を取り上げて学校全体でキャリア教育についての認識や理解を深め、キャリア教育推進委員会やキャリア教育部会などの組織を設置し機能させていくことが必要であると考えられる。

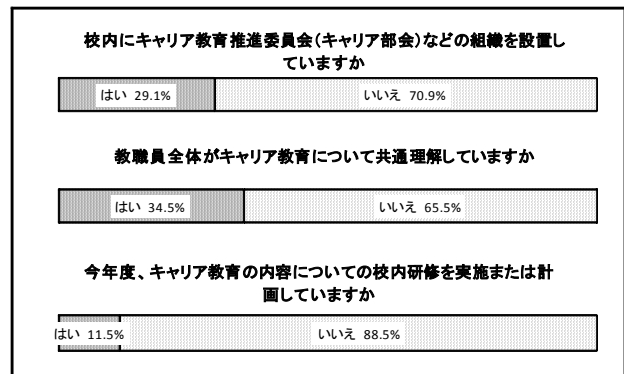


図7 キャリア教育の理解と校内体制

③ 他校種などとの連携

キャリア教育について中学校と連絡協議会をもつなど連携を図っていると答えた学校は28%であり、職場見学を実施または計画している学校は35%である（図8）。このように、他の校種や機関との連携はあまり進んでいないのが現状である。学校外の機関や人材の活用は、他校種等との連携・協力を図る上でのきっかけになると考える。

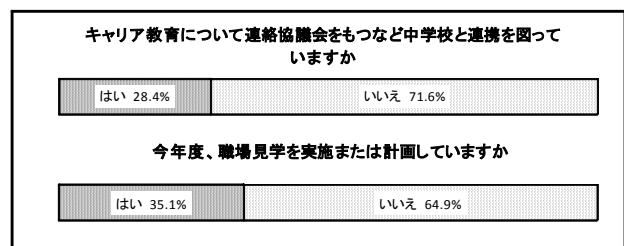


図8 他校種などとの連携

④ 教育活動と地域人材の活用

キャリア教育を教育活動全体で行っていると回答した学校は69%であった(図9)。教員の意識では、全教育活動を通じて実施すべきだという回答が99%だったことから、必要性の認識に比べ、実態としてはまだ不十分であることが分かる。また、地域の人材を活用していると回答した学校は90%に上っている(図9)。多くの学校で行われている地域の人材を活用した教育活動をキャリア教育の取組として機能させていくことができれば、新しい教育内容や活動を設定するといった大きな負担なくキャリア教育を進めていけるものと思われる。そのためには、キャリア教育として機能していくための見直しの視点、実践例や展開案を提示することが有効であると考えられる。これにより、そのほかの教育活動もキャリア教育の視点で行うきっかけとなり、キャリア教育を教育活動全体で行っていると回答する学校数も増加することが期待できる。

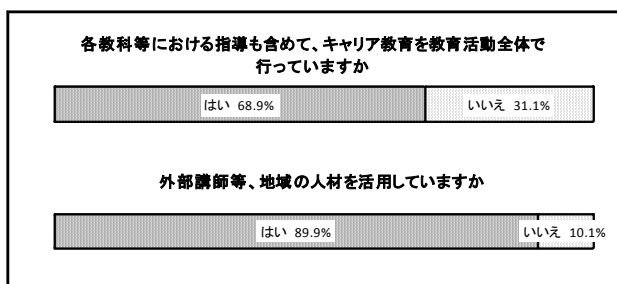


図9 教育活動と地域人材の活用

⑤ キャリア教育の家庭や地域への啓発

キャリア教育の広報活動については37%の学校が行っていると回答している(図10)。しかし、内容については、キャリア教育の一環として行っている講演会の概要や取組の紹介などの一部に限られ、キャリア教育について十分に家庭や地域などに啓発を行って協力を得られているとは言えない現状がうかがえる。

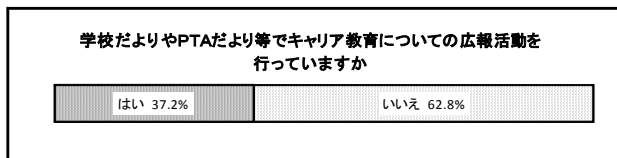


図10 キャリア教育の啓発

⑥ キャリア教育の評価

キャリア教育の評価については、65%の学校で行っていると回答している(図11)。しかし、内容については、主に家庭に対して、将来の夢や希望などを子どもと話し合っているかなどについて、学校評価での評価項目の一つとして挙げたも

の多いようである。キャリア教育の指導に対する評価として、学校で行っているキャリア教育の内容や子どもに身に付けさせたい具体的な能力や態度についての項目や評価方法について検討していく必要がある。

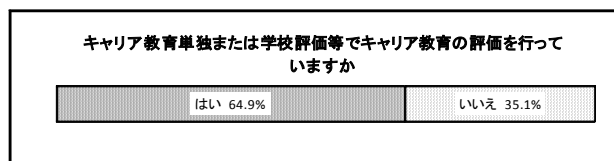


図11 キャリア教育の評価

2 学校外の人材を活用した教育活動について

(1) 取組の実態

学校外の人材を活用した教育活動については、各学年とも多くの単元・内容等で活用しているという回答が寄せられている。(別添資料の一覧表を参照)

① 全体的な特徴

学校外の人材を活用する目的や役割としては、作業学習や校外学習などの補助・手伝い、専門的な技術・技能の伝達、専門的な説明・講話の三つに大別できる。活用場所については、来校してもらった場合と見学先など校外での場合とがある。

ア 単元・内容等の特徴

全体的な傾向としては、学校外の人材を活用することについて外部団体等からの協力が得られる制度として位置付けているもの(動物ふれあい教室、命の講座、交通安全教室等)や、教員以外の人材を活用の方がより専門的な指導や支援が得られる実技や実習を伴うものが多い。また、学校によって、活用する学年や単元・内容等の数、実施する学年に偏りが見られる。これは、学校支援センターなどで地域の人などの協力を得られる制度を作っていること、長年にわたる学校独自の実践から学校外の人材活用が恒例となっていることなどが要因として考えられる。

イ 学校行事や教育課程外での活用

複数の学年あるいは学校全体で行っている活動として、学校行事やクラブ活動、教育課程外である放課後の学習補助や朝の読み聞かせ、集会などでの活用が挙げられている。これらの中には、学校の特色ある教育活動になっているものもある。

② 学年別の特徴(次頁表1)

ア 低学年

教科・領域では、生活科が多く、数々の単元で、保護者や祖父母、地域の人との協力を仰ぐ場面が多

い。それ以外では、主に実技に関する教科・学習内容で、公的機関や企業に勤めている人の活用が多い。

イ 中学年

教科・領域では、社会科、総合的な学習の時間において、地域の人、公的機関や企業に勤めている人の活用が多い。このほか、道徳、特別活動では、公的機関に勤める専門家の活用が多い。

ウ 高学年

教科・領域では、総合的な学習の時間及び社会科での活用が多い。その分野の専門家や内容に精通している地域の人、公的機関や企業に勤めている人の活用が多い。家庭科や体育科など実技に関する教科・内容では、専門家の実技指導での活用や保護者の支援が多く見られる。

(2) 取組に対するキャリア教育としての意識

各学年とも多くの単元・内容等で学校外の人材を活用した教育活動を行っているが、全体的にはそれらをキャリア教育の一環として意識して行っているものは少なく、全回答数の34%に過ぎない。

(表1及び別添資料の一覧表を参照)

① キャリア教育としての意識が高い単元・内容

キャリア教育として意識して取り組んでいると多くの学校で回答されたものとして、社会科における商店、農家、工場や公的機関の見学を伴う学習と生活科の地域の探検が挙げられる。これらは、学習の目標自体がキャリア教育の目指す能力や態度に直接かかわっているためであると考えられる。

総合的な学習の時間の単元でも、社会科に関連した単元・内容でキャリア教育としての意識が高い。道徳や特別活動、総合的な学習の時間や学校行事等で取り組まれている高齢者や障がいをもつ人との交流など福祉に関する内容、清掃や奉仕活動、異年齢集団との交流もキャリア教育としての意識が高いが、学校外の人材を活用する上での問題点として指摘されるのは、学校外の人材活用時にのみ注目し、全体的にその事前や事後指導が充実していないということである。学校外の人材活用を一過性のイベント的なものとしてとらえられている傾向が見られる。この点を踏まえた上での提案が必要であると考えられる。

② キャリア教育としての意識が低い単元・内容

①以外の単元や内容等では、ほとんどがキャリア教育として意識して取り組まれている。しかし、これらを少しでもキャリア教育の一つとして位置付け、キャリア教育の実践として機能させて

いくことができれば、小学校でのキャリア教育をさらに充実・発展させていくことができるものとする。

表1 学校外の人材を活用した取組とキャリア教育としての意識

(ア～オは複数回答有)

学年	教科・領域	学校外人材活用校数	ア 保護者 や家族	イ 地域住 民	ウ 公的機 関の人	エ 民間企 業の人	オ その他	キャリア教 育の一環と して実施校
1年	国語	9	4	3	2	1	0	1
	生活	220	83	98	26	14	27	39
	音楽	21	1	0	0	20	0	1
	図工	6	2	0	4	0	0	0
	体育	21	8	7	1	6	3	0
	道徳 行事	6	4	3	1	0	1	3
	特活	48	9	10	30	5	2	15
2年	国語	10	4	5	2	0	0	0
	生活	260	110	113	48	37	17	101
	図工	5	0	1	4	0	0	0
	体育	24	8	7	2	7	4	1
	道徳	3	2	2	0	0	0	2
	特活	46	9	5	27	5	5	16
	行事	4	2	1	2	0	1	2
3年	国語	37	8	20	3	0	7	2
	社会	260	24	86	88	71	7	182
	算数	39	0	14	6	3	20	4
	理科	12	1	0	10	0	1	0
	音楽	25	1	2	0	21	2	2
	図工	5	1	1	2	0	1	1
	体育	22	6	5	2	8	4	2
	道徳 特活	64	12	11	40	3	6	10
	総合	125	32	73	35	4	10	46
	行事	5	3	2	2	0	1	2
	国語	22	5	14	1	0	2	3
4年	社会	181	15	35	136	11	3	80
	理科	34	1	3	26	1	3	4
	音楽	3	0	2	0	0	1	1
	図工	6	1	1	2	1	1	1
	体育	21	4	3	5	6	5	1
	道徳 特活	44	6	7	23	4	6	11
	総合	153	14	59	64	10	26	55
	行事	9	5	3	3	0	2	2
	国語	21	1	15	1	1	2	1
	社会	59	3	7	7	44	0	47
理科	11	0	1	7	2	1	1	
5年	音楽	9	2	4	0	0	4	1
	図工	5	0	1	3	1	0	2
	家庭	92	74	22	4	0	0	11
	体育	27	7	6	2	9	6	4
	道徳 特活	62	8	4	24	10	10	22
	総合	179	26	88	64	13	20	80
	総合、外国語	11	1	3	2	0	5	4
	行事	9	4	1	2	0	1	1
	国語	22	3	16	2	0	2	2
	社会	99	8	25	60	2	5	33
6年	理科	16	1	3	11	0	1	2
	音楽	31	4	14	7	0	12	4
	図工	12	0	1	8	2	1	1
	家庭	39	31	11	0	0	0	2
	体育	34	7	6	7	13	3	8
	道徳 特活	55	5	10	26	7	10	22
	総合	122	14	47	44	20	20	61
	総合、外国語	15	3	6	7	0	3	6
行事	15	7	3	4	0	5	4	

IV 調査結果を生かした提案

1 提案事項

学校外の人材を活用した教育活動については、各学校とも多くの取組がなされているとの回答があった。そこで、学校外の人材を活用した取組がキャリア教育の実践としても機能し、各学校におけるキャリア教育の推進に結び付くことを目指し、以下の二点を提案する。

- キャリア諸能力の伸長に関連する学校外の人材を活用した単元・題材等の一覧
- 学校外の人材を活用したキャリア教育実践モデル

2 内容と活用方法

(1) キャリア諸能力の伸長に関連する学校外の人材を活用した単元・題材等の一覧（以下、単元・題材等の一覧）

国立教育政策研究所生徒指導研究センターの調査研究報告書「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（平成14年11月）の中で示された「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（以下、学習プログラムの枠組み例）にあるキャリア発達にかかわる諸能力（4能力領域8能力）をもとに、各学年における学校外の人材を活用した単元・題材等の学習を通して、その中のどの能力が特に育成されるかを一覧表の形式で示したものである（図12）。単元・題材等は、調査で多くの学校から回答があったものを取り上げた。縦軸に4能力領域8能力を、横軸に1年から6年までの各学年を配置し、育成されると考える能力ごとに各単元・題材等を振り分けた形式になっている。なお、学校外の人材を活用する場面だけではなく、その単元・題材等の学習全体を通して育成されると考えられる能力すべてを洗い出し、該当する8能力に振り分けた。

この一覧により、それぞれの単元・題材等の学習でどの能力が身に付くか、全体を見渡すことができる。また、小学校6年間を見通して、キャリア諸能力の伸長に向けた系統的かつ計画的な指導を構想することができるものとする。

(2) 学校外の人材を活用したキャリア教育実践モデル（以下、実践モデル）

学校外の人材を活用している各学年の単元・題材等を取り上げ、それをキャリア教育の取組として

ても機能するように、キャリア教育の視点から見直すポイントや学校外の人材を活用する流れなどについて示したものである。調査で多くの学校から学校外の人材を活用していると回答のあった単元・題材等のうち、活用校数の多さや学年のバランス、キャリア教育としての意識の有無等を考慮して選び、作成した（表2）。また、項目及び内容を精選し、一つの単元・題材等でA3判1枚に収まるような体裁にした。

領域	能力	1年	2年
人間関係形成能力	【自己理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いを認め合うことを大切にして行動していく能力	生活「動物と友達」 生活「昔の遊び」 生活「野菜づくり・植物栽培」 音楽「鍵盤ハーモニカ」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」	生活「町探検」 生活「自分の成長」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」
	【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	生活「動物と友達」 生活「昔の遊び」 生活「野菜づくり・植物栽培」 音楽「鍵盤ハーモニカ」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」	生活「町探検」 生活「自分の成長」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」
情報活用能力	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	生活「動物と友達」 生活「野菜づくり・植物栽培」 音楽「鍵盤ハーモニカ」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」	生活「町探検」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」
	【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	生活「動物と友達」 生活「野菜づくり・植物栽培」	生活「町探検」 生活「野菜づくり・植物栽培」
将来設計能力	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	生活「動物と友達」 生活「野菜づくり・植物栽培」 特活「楽しい給食」	生活「町探検」 生活「野菜づくり・植物栽培」 特活「楽しい給食」
	【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の進路行動等で実行していく能力	生活「動物と友達」 生活「昔の遊び」 生活「野菜づくり・植物栽培」 音楽「鍵盤ハーモニカ」 体育「水遊び」	生活「町探検」 生活「自分の成長」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」
意思決定能力	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	生活「昔の遊び」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」	生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」
	【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適切するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	生活「野菜づくり・植物栽培」 音楽「鍵盤ハーモニカ」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」	生活「自分の成長」 生活「野菜づくり・植物栽培」 体育「水遊び」 特活「楽しい給食」

図12 単元・題材等の一覧の一部分

表2 実践モデルの作成単元・題材等

教科・領域	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語			書写 (毛筆指導、支援)		書写 (毛筆書き初め指導、支援)	
社会			ちいちゃんのかげおくり／一つの花 (戦争題材)	住みよいくらし (飲料水、ごみの処理)	生活と工業 (自動車工場)	戦争と人々のくらし
算数			安全なくらし (消防署、警察署)	古い道具と昔のくらし	生活と情報 (放送局、新聞社)	世界の平和と日本の役割
理科			そろばん	夏の星／冬の星		
生活	動物の友達 昔の遊び 野菜づくり・植物栽培	町探検 自分の成長				
音楽	鍵盤ハーモニカ		リコーダーに親しもう			日本の音楽を味わおう
図画工作						
家庭					布で作ってみよう	
体育	水遊び		浮く・泳ぐ運動			水泳
道徳						
総合的な学習の時間			地域を知ろう(郷土・地域学習)		稲作(米作り)	
特別活動	楽しい給食、いろいろと食べよう (食の指導)		万引防止指導 (万引防止教室)	自転車の安全な乗り方 (自転車安全教室)		環境

実践モデルは、多くの学校で活用できるように汎用性に配慮した。そのため、単元・題材等の名称は、教科・領域により大単元、中単元、小単元名、または、総合的な学習の時間や特別活動などのように大まかな単元・題材名や内容等にしたものもある。また、生活科や社会科などのように複数の学年にまたがって内容が示されているものについては、いずれかの学年または両方の学年に位置付けた。

この実践モデルは、学校外の人材を活用した単元・題材等の授業を構想し、指導を行う際に活用できるものである。以下に、それぞれの項目内容と活用方法について、左右の半分ずつに分けて説明する（図13・次頁図14）。

① タイトル部分

該当学年、教科・領域名、単元・題材等の名称及び目標を示した。単元・題材等については、前述のとおり大単元、中単元、小単元のいずれか、または、学習内容を端的に表す名称で示したものもある。目標は、その単元や題材等の学習自体の目標やねらいを記述した。

② 活用できる学校外の人材と内容等

学校外のどのような立場の人が活用できるか、また、どのような場面や内容で活用できるかを示した。調査の回答を参考にし、多くの学校で活用されている人材や内容等を提示した。

③ 育成することが期待される能力・態度

学習プログラムの枠組み例において示されている4能力領域8能力の低・中・高学年ごとの具体的な能力・態度を参考にして、取り上げる単元・題材等の学習全体を通して育成されると考える能力・態度を洗い出し、具体的に示したものである。学年により、あるいは単元・題材等により、示した内容や能力の数は

様々である。その中で、特に、学校外の人材を活用することによって育成されるとされる能力・態度については、太字で示した。

学習プログラムの枠組み例は、手引にも掲載されており、そこに掲げられている具体的な能力・態度については、キャリア教育の目標や評価規準としての活用が望まれている。これを基にして、実際に取り上げる単元・題材等の学習内容に照らし合わせ、その学習を通して育成される具体的な能力や態度を示したものは、キャリア教育を実践する際の目標になるものとする。

これにより、取り上げる単元・題材等の指導を通じたキャリア教育の取組として目指すべき方向や育成すべき能力・態度が明確になる。また、発達段階に応じた能力・態度を示している学習プログラムの枠組み例の活用は、学年に応じた指導に

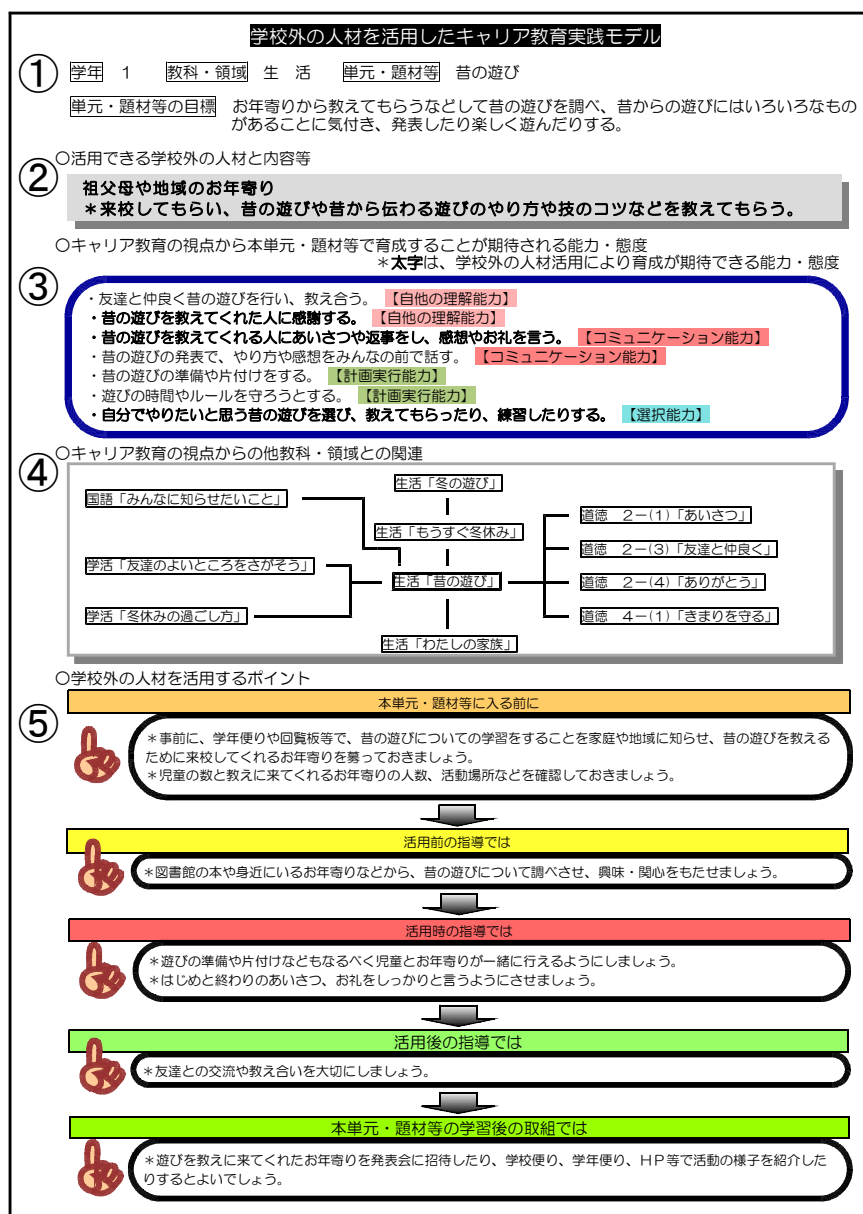


図13 実践モデル（左半分）

もつながり、それらを踏まえた授業構想に基づくキャリア教育の実践が期待できる。

単元・題材等の目標やねらいの達成とともに、キャリア教育の視点から、ここで示した能力や態度を身に付けさせるような指導を行うことがキャリア教育の実践、推進につながるものとする。

④ 他教科・領域との関連

キャリア教育の視点から、本単元・題材等で育成される能力・態度が、同学年の同教科・領域または他教科・領域のどの単元・題材と関連があるのかについて系統性を示したものである。複数の学年にわたる目標・内容が示されている教科・領域については、それを視野に入れた関連ある単元・題材も含めて示した。

これにより、キャリア教育の視点から育成される能力・態度が、取り上げた単元・題材等の学習

だけでなく、他の単元・題材や他教科・領域の学習とも相互に関連しながら育成されていくという系統性を把握することができる。

⑤ 学校外の人材を活用するポイント

取り上げた単元・題材等の指導の各段階において、学校外の人材を活用する前、活用時、活用後の指導に分け、それぞれの段階の取組のポイントや留意事項等を記したものである。単元・題材等によっては、活用前、活用時、活用後だけではなく、単元・題材等の学習に入る前や学習後の取組の中で配慮すべき事項を加えたものもある。

これらを取り出して示すことにより、児童に対する具体的な指導事項や内容を指導段階ごとに把握することができ、それぞれの段階で重要な点を押さえたキャリア諸能力を育成するための指導が可能になる。具体的には、協力してくれる人との

事前の打合せ事項、活用時の配慮事項、事後のかかわりなど、学校外の人材を活用する上での具体的な連絡事項や連携のしかたが分かる。また、各活動の円滑な実施に役立つと思われる事前準備や、学習後の取組を参考にすることで、事前及び事後指導の充実も期待できる。

⑥ 学校外の人材を活用する指導の流れ

原則として、学校外の人材の活用前、活用時、活用後の指導の三つの段階に分け、指導計画とそれに基づいた展開及びキャリア教育の視点を踏まえての評価の観点を示した。

学校外の人材の活用は、単元・題材等の導入、展開、まとめ等様々な場面が考えられるが、各学校の年間指導計画や先進校の実践事例等を参考に位置付けた。

展開の部分には、大まかな学習活動とそれに対する指導上の配慮事項を記した。また、学習活動の欄には、その活動を行う中で育成されると考えられる8能力の名称を記した。

⑥

○学校外の人材を活用する指導の流れ

活用前の指導

<p>①昔の遊びについて調べよう ◆図書館にある本や身近にいるお年寄りなどから、昔からある遊びにはどのようなものがあるか調べ。</p>	
<p style="text-align: center;">学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昔からの遊びについて調べる。 ●調べたことや身近なお年寄りから聞いてきたことを紹介し合う。 ●次時の昔の遊びを教えてもらう活動について知る。 	<p style="text-align: center;">指導上の配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正月に遊んだ経験や祖父母などから聞いた話なども思い起こさせる。 ○実際に遊んだ経験のある児童に、その感想などを発表させるとその後の意欲付けにつながる。 ○教えてもらう際の注意事項やマナーなどについて事前指導をしておく。
<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔からの遊びについて意欲的に調べ、紹介している。 ・次時の活動について知り、遊びを教えてもらう際のマナーや注意事項が分かる。 	

活用前の指導

<p>②遊び方を知り練習しよう ◆来校してくれたお年寄りなどから、昔からある遊びのやり方を教わり練習する。</p>	
<p style="text-align: center;">学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はじめのあいさつをする。 【コミュニケーション能力】 ●活動場所に分かれ、昔の遊びを教わる。 【自他の理解能力】 【計画実行能力】 【コミュニケーション能力】 【選択能力】 ●感想を発表し、終わりのあいさつをする。 【コミュニケーション能力】 	<p style="text-align: center;">指導上の配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来校された人の紹介をし、あいさつをさせる。 ○準備や片付けなども一緒に行うようにさせる。 ○教えてくれたことに対し、しっかりとお礼を言うように声掛けをする。 ○練習しながら、技のコツや遊び方の工夫なども考えさせる。 ○なるべく多くの遊びに取り組み、やってみるよう声掛けをする。 ○本時の感想を発表させ、お礼のあいさつをさせる。
<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめと終わりのあいさつ、お礼などがしっかりとできる。 ・遊びの約束を守り、片付けがしっかりとできる。 ・自分のやりたい遊びについて、意欲的に教わり、練習している。 	

活用後の指導

<p>③発表会をして楽しく遊ぼう ◆昔からの遊びを友達に発表したり、教え合いをしたりして、みんなで楽しく遊ぶ。</p>	
<p style="text-align: center;">学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昔からの遊びの発表会を行う。 【コミュニケーション能力】 ●昔からの遊びを教え合う。 【自他の理解能力】 	<p style="text-align: center;">指導上の配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人やグループで発表し、感想を発表させる。 ○上手にできたことや協力して発表できたことを賞賛する。 ○お年寄りから教えてもらったことを思い出させ、遊びのコツなどを伝えられるように声掛けをする。
<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会で、やり方や感想が発表できる。 ・遊びの教え合いで、仲良く教えることができる。 	

図14 実践モデル(右半分)

なお、人物のイラストの吹き出しは、その活動の中で予想される児童の発言やつぶやき、教師の言葉掛けや働き掛けなどを記した。

これにより、より具体的にキャリア教育を実践していくイメージをもち、授業の構想を練ることができる、それぞれの学習内容で児童に身に付けさせる能力が分かり、教師の指導のポイントが明確になる、児童の具体的な反応や様子が想像でき、目指す児童像が分かる、キャリア教育の視点からの評価の観点が明確になり、評価方法を構想しやすくなる、などが期待できる。

3 活用により期待される効果

単元・題材等の一覧及び実践モデルの活用により、以下の効果が期待できる。

- 学校外の人材を活用する単元・題材等において、育成される能力や態度の小学校6年間を見通した系統性が分かり、計画的、系統的な指導ができる。また、同学年内においても、関連のある単元・題材等が示されているので、教育内容に関連をもたせた指導ができる。
- 既存の教育活動を、キャリア教育の視点から見直し、キャリア教育の授業を構想できる。また、指導のポイントや流れの提示により、授業の進め方や児童への指導事項について段階を追って把握することができる。
- 学校外の人材を活用する単元・題材等について、育成が期待されるキャリア教育の視点からの能力や態度が具体的に分かる。
- 学校外の人材を活用するポイントが示されているので、協力してくれる人に対する具体的な配慮事項等が分かる。

V 研究のまとめと今後の課題

今回の研究は、キャリア教育として新たな教育内容や活動を設定して行うということではなく、今まで各学校で行ってきた取組をキャリア教育の視点から見直すことで、キャリア教育の推進に結び付けることができるのではないかという考えが基本にあった。そこで、研究内容を各学校で数多く行われている学校外の人材を活用した教育活動に特化し、実践モデルを作成し提示した。これを参考にして、今までの授業を見直して、構想し、実践していけば、十分にキャリア教育として機能するものになると考える。

今回は、実践モデルの作成までを行い、実践までには至らなかったが、今後、実践モデルを基に授業実践を行い、これらをよりよいものにしていく必要がある。また、今回は学校外の人材を活用した教育活動に限定したが、キャリア教育は学校の教育活動全体を通して行うということから、さらに幅広いキャリア教育の推進に結び付く提案をするために、具体的な取組の紹介や実践の積み重ねが必要になると考える。

そのほか、今回の調査研究から、今後の研究課題として、以下の点を挙げておきたい。

- 小・中学校の連携を図った上で、義務教育9年間を見通した小学校でのキャリア教育の内容と在り方
- 各学校でキャリア教育を推進するリーダーの養成と組織を機能させる体制づくり
- キャリア教育に関する家庭、地域の協力体制づくりと啓発の在り方

小学校においては、いまだにキャリア教育に取り組まなければならないという意識が高いとは言えない現状がある。しかし、現在の社会状況や若者の実態等から見ると、キャリア教育への期待は今後ますます高まることが予想される。課題は、まだまだ多くあると考えるが、今後ともその克服に向けた研究や新たな提案をしていきたいと考えている。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 ―児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために―』 (平成18年)
- ・国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『自分に気付き、未来を築くキャリア教育 ―小学校におけるキャリア教育推進のために―』 (平成21年)
- ・三村 隆男 著 『新訂 キャリア教育入門 ―その理論と実践のために―』 実業之日本社 (2008)
- ・三村 隆男 編 『図解 はじめる小学校キャリア教育』 実業之日本社 (2004)
- ・児島 邦宏・三村 隆男 編 『小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案』 明治図書 (2006)
- ・三村 隆男 著 『小学校キャリア教育実践講座』 (財)日本進路指導協会 (2008)